



仙台八木山防災連絡会、 その変遷と活動成果について



宮城県 仙台八木山防災連絡会
会長 田中 礼治

1 仙台八木山防災連絡会とは

仙台八木山防災連絡会は、仙台市西部の丘陵地区にある八木山地区に、2005年に「八木山防災協会」として発足して、その後八木山防災連絡会、仙台八木山防災連絡会と名称を変えながら今年で14年目を迎えています。発足当時予測されていた「宮城県沖地震」に備えるため、地域の「共助、助け合い」およびその前提となる情報共有を基本理念として、「助けてくれる」「助けてあげる」という安心感のある町、「地震が起ころうとも安心して住める町・八木山」を目指して発足しました。

当初から「若者の参加」を最重要課題と位置づけ、八木山中学校における耐震授業や八木中祭での展示会参加等「若者参加型自主参加型組織」作りを行ってきました。

これらの取組の成果が、東日本大震災時に、通信手段が途絶える中、八木山中学校のほぼ全生徒400名以上が、自主的に呼びかけあって中学校に集結し、避難所に向けて行進したことは今でも地域の



東日本大震災時に自主的に
八木山中学校に集まった生徒たち

語り草となっています。

これらの成果が確実に出てきたことを確信し、活動を更に強化し、全国に向けて発信すべく名称を「仙台八木山防災連絡会」と改称し、現在積極的に活動を行っています。

2 具体的な取組内容

全体を4つの専門部会に設けて、それぞれの地域課題解決に向けて専門的な取組を行い、活動の経緯・成果をお互いに共有し連携を図っています。

「医療関連部会」では、健康維持・疾病予防に向けた取組、災害時要援護者とその支援用等を、地域医療機関、介護福祉機関と連携しネットワーク形成を図っています。

「若者部会」では、毎年開催される「地域防災シンポジウム in 八木山」を中心に異世代コミュニケーション活性化を図っています。また小中学校の防災学習の推進を図っています。



地域防災シンポジウム in 八木山

「住みよいまちづくり部会」では、行政と連携しての地震に強いまちづくりの推

進や、地域の安全安心まちづくりの検討等、地域防災に関わる取組を行っています。

「助け合い部会」では、総合防災訓練の実施、災害時要援護者支援活動の体系化の推進他、地域ネットワークの中での災害発生時に備えての活動を行っています。

3 活動の成果

2015年3月に開催された「国連防災世界会議」に参加し、ブース展開を行うと共に、世界の高校生「U-18世界防災会議」を当会が主催し、会議での発表の他、防災ダンスの実施、津波実験装置の展示等を行いました。

また、八木山防災パフォーマンスチームが小学生・幼稚園児にダンスを教えたり、仙台赤十字病院・消防と連携した総合防災訓練を行ったり等、様々な地域イベントを行っています。

また、会発足から継続して八木山中学校2年生全員に耐震授業を行うと共に、1年生全員へ防災ダンス・防災ダックの授業を行い、地域をつなぐボランティア養成も積極的に取り組んでいます。

さらに昨年度には、地域包括支援センター、東北工業大学、仙台赤十字病院と連携し、八木山版認知症ケアパスを作成、全家庭に配布しました。

今年度は、仙台八木山防災連絡会オリジナルの「携帯用非常トイレ」を活用して、八木山中



八木山防災パフォーマンスチーム：ぼうさい仮面、ぼうさいレディー

学校での作成のほか、催事での周知を行いながら、災害時においてライフラインが止まっても自宅で避難できるよう「トイレ」の問題を解決し、となり近所で助け合いながら災害を乗り切るための自助・共助の方法のひとつとして広めていく予定です。



八木山版認知症ケアパス

4 最後に

仙台八木山防災連絡会は、地域のあらゆる機関・団体が縦割りではなく、イベントごとに自由に連携体制を構築しています。小中学生を対象とするだけでなく地域住民を巻き込んだ生涯学習として防災教育を推進し、また地域住民とともに防災教育を学び、さらに子供たちが地域防災ボランティアの主役となり、そして大人が子供に教えるという姿勢ではなく、全ての世代が同じレベルで語り合う世代間を越えた地域の語らいの場として今後も取り組んでいくとともに、その取組みを仙台全市へ、日本全国へ、世界へ発信していきます。

<ホームページアドレス：bousai-sendai.yagi-yama.jp/>